

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2020.8.3-8.9**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

6:1 それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。

6:2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。

6:3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。

6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

6:5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

6:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

6:7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。

6:8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることもなる、と信じます。

6:9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。

6:10 なぜなら、キリストが死なれたのは、た

だ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

6:11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。

罪ある者が恵みを与えられるのだとしたら、罪は恵の元になるということだから、「私たちは罪の中にとどまるべき」だなどと言う人がいたでしょう。クリスチャンの中にも、罪を犯しつつ、神の愛を感じているとそぶく人がいないとも限りません。そのような、とんでもない発言をパウロは警戒しています。そして「絶対にそんなことはありません。」と言っています。

おそらくそのような迷いごとを言う人は、自分が神様から離れて、勝手にやりたいことの言い訳を探しているでしょう。私たちは「いのちにあって新しい歩みをする」べきです。神様の恵みを感じたなら、その神様の愛に答えたい、神様を悲しませないで喜ばせたいと思うのが正常なクリスチャンです。

「罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者」ですから、そのようにあ歩むことが、いきいきと成長する道であり、喜びなのです。神様を喜ばせて、自分もうれしい…。そういう歩みをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 4日 火曜

ローマ



6:12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。

6:13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。

6:14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。

6:15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下にはなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。

6:16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。

6:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、

6:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。

6:19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。

6:20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義

については、自由にふるまっていました。6:21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。

6:22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。

6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

救われて神の子となったクリスチャンであっても、信仰が健全に成長していない場合があることをパウロは危惧しました。その場合、救われたことに安心してしまって、「恵みの下にあるのだから罪を犯そう」と考える、または罪を犯しても平気だと考えるのではないかということです。そこまでいかなくても、恵によって赦されるだろうと、主に従わないままで平気な人がいるかも知れません。

パウロは、救われた者は罪から解放されていると言います。それは罪を犯してしまうという悪の力に支配されないということです。もう罪に支配しないのです。罪を犯しても赦されるからやっつけてしまおう…というのはまだ罪の影響を受けています。開放されているのですから、罪と手を切りましょう。その方が楽なはずです。主に従った方が開放的なはずなのです。

安心して神のみこころを行って良いのです。良いことを行うことで、ストレスになることはありません。別の自分になることではありません。後悔することはありません。それが自分を解放することなのです。

安心して主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 5日 水曜

### ローマ

7:1 それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。・・私は律法を知っている人々に言っているのです。・・

7:2 夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。

7:3 ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たと他の男に行っても、姦淫の女ではありません。

7:4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

7:5 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。

7:6 しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

救われたということは、古い自分は死んだということです。イエス様の十字架が自分の身代わりであったということは、自分が死んだということなのです。それほど十字架は力あるものです。また信仰とはそのように、力あるものなのです。

死んだというのは律法によって死刑になったということです。イエス様はまさにその死刑を味わってくださったのです。



そして死んだということは、すでにさばかれる必要はなく、また罪に対しても何の反応もないということです。私たちは罪を犯したくなる思いがあっても、それは一時的なことであり、やがて消えてゆくものですから、そのような思いに付き合っている必要はありません。もしも罪を犯し続けているなら、心が苦しくなるでしょう。

ですから、新しい御霊に仕えていることを思い、自分の新しい人が喜ぶことを選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:7 それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょう。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。

7:8 しかし、罪はこの戒めによって機会を捕え、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

7:9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。

7:10 それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。

7:11 それは、戒めによって機会を捕えた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。7:12 ですから、律法は聖なるものであり、戒めも聖であり、正しく、また良いものなのです。

7:13 では、この良いものが、私に死をもたらしただけでしょうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪なのです。罪は、この良いもので私に死をもたらしすことによって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。

7:14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。

7:15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっている

からです。

7:16 もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。

7:17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。

7:18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

7:19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。

7:20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。

7:21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。

7:22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでるのに、

7:23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。

7:24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だががこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

7:25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

律法には人を救う力はありません。罪を示すだけです。時には、その禁止行為をしたくなることさえあります。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう…とあるとおりです。そこでパウロは「律法は罪なのでしょうか。」と、問いかけています。結論は、問題は人間の内にある罪ということです。

人は時に、罪を犯しておきながら、誰かが大ごとにした…など他人のせいにすることがあります。問題は自分の内にある罪です。自分の罪を正面から受け止めましょう。神様の救しと力を体験できるからです。

パウロは正直と謙遜は、罪の力と人間の無力さを理解させるためです。これは救われてからのパウロの霊的な状態を表しています。パウロほどの人がどんな罪…と疑いたくありませんが、詮索する必要はないでしょう。

人はどんなにきよめられても、完全に至ることはできません。むしろきよめられれば、小さな罪に気づきます。また主にもっと従いたいと思います。もっと愛したいと思います。お役に立ちたいと思います。パウロはそのような思いから、自分を見たのです。

ここでパウロは、もっとレベルの高い信仰に…と思っているのではありません。彼は自分に關心があるのではなく、あくまでも神様のみこころに關心があるのです。ですから、罪の程度を区別せずに、「私のうちに住む罪」と言っているのです。彼は誤解を受けたくない思いよりも、神様の思いを実現させたい思いが優っているのです。

このように自分の罪を認める人は、聖なる人です。そのような価値観を持つ共同体でありましょう。

- ①神のみこころは？
- ②どんな思いになりましたか？
- ③生き方にどう適用しますか？
- ④この世にあって何を実践しますか？



8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

8:3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。

8:4 それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

8:5 肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。

8:6 肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。

8:7 というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。

8:8 肉にある者は神を喜ばせることができせん。

律法は罪を明かにして、さばきを実現させるものだから、「死と罪の原理」の中にあります。一方イエス様の十字架によって「いのちの御霊の原理」が実現しました。それは神の愛による恵です。

「律法にはできなくなっていること」とは、人を救うことです。神はイエス様によって救ってくださいました。肉を持ってこの世に来られ、律法のさばきを御自身が受けてくださったのです。「肉において罪を処罰された」ということです。

私たちは、主イエスが自分の身代わりに十字架にかかってくださったということを知っています。ならばそれは自分が十字架にかかったと同じことであり、自分は律法のさばきによって死んだということです。ですからイエス様の十字架を信じる者は、肉においてはすでに死んでいるのです。

ですから私たちは、すでに「御霊に従って歩む」者であり、「御霊に従う者」、「御霊に属する者」なのです。「神を喜ばせる」ことをモットーとして、神の喜びを楽しみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 8日 土曜

### ローマ



ちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。

8:9 けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。

8:10 もしキリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。

8:11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

8:12 ですから、兄弟たち。私たちは、肉に従って歩む責任を、肉に対して負ってはいません。

8:13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。

8:14 神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。

8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子とてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。

8:16 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。

8:17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私た

信仰は御霊によりますから、イエスを主と信じる人には御霊がおられます。ですから信じる私たちは、「御霊の中にいる」のであり、「キリストのもの」であり、「霊が、義のゆえに生きて」おり、「死ぬべきからだをも生かして」いただくことができ、「神の子ども」であり、「『アバ、父。』と呼ぶ」ことができ、「キリストとの共同相続人」です。

今日も聖霊様がいてくださることを覚えて、聖霊様をあがめて、聖霊様に従いましょう。御霊によって、天のお父様に親しみを覚え、甘えてみるのも良いでしょう。また訓練を受けることも感謝しましょう。何でも相談しましょう。何でも教えてもらいましょう。何でも助けていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

8:19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。

8:20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。

8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。

8:22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。

8:23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。

8:24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。

8:25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。

被造物、すなわち全宇宙とそこにあるもの全てが、神様の救いにあずかることを、パウロは擬人的な表現で語っています。万物は、神が人類を愛して人のために創造されたのであって、人類の罪ゆえに呪いの中に入ってしまったのですから、人類が救われることで呪いから解放されるのです。

神様の救いがこのように大きなスケールであるこ

とを覚え、神様の偉大さを讃えましょう。またこの望みを持って、自分自身も「にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んで」いきましょう。それゆえに、「見ていないもの」でも、それを「望んで」、「忍耐をもって熱心に待ち」しましょう。この世のこと、世の終わりのことも、そして誰かの救いも、待ち望みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

